

屋外窒素ガス装置拡充

コフロック

【京都】コフロック（京都府京田辺市、小島製糖社長）は、エネルギー市況の高騰や環境意識の高まりで需要が増える屋外型ガス発生装置「GENE-BASEシリーズ」のラインアップを拡充した。大気を原料に窒素ガスを生成するタイプで顧客の要望が多く、新規開拓と販売増が見込める出力11kWと15kWの2種を追加する。従来は同7・5kWと同22kWのみだった。窒素ガスは酸化防止用途で多様なモノづくりに活用されている。

11kW・15kW追加 エネ高騰で需要高まる



屋外型ガス発生装置「GENE-BASEシリーズ」の窒素ガス発生装置（11kWと15kW）

価格は出力11kWがど、ガスの純度で変動1600万円から（消費税抜き）、同15kWは2000万円から（同）。それぞれ99・99%の純度で、成形、加工食品の鮮度保持など用途は幅広い。

屋外型ガス発生装置はローリーやボンベでのガス利用より、トータルコストの大幅抑制が可能。エネルギー価格と物流費が上昇する中、配達不要で、グリーン電力で動かせる環境負荷も抑制できる点が評価され、2022年4～9月期の受注台数は前年同期比約4倍と好調だ。足元の引き合いも強い。

コフロックは45度C環境下で連続運転できる高信頼性や60℃以下の低騒音の実現で18年に業界初の屋外型ガス発生装置を製品化した。屋内型の設置が難しく、装置導入を断念していた顧客ニーズをつかみ、新規開拓が進む。窒素ガス以外にも、酸素ガスタイプもラインアップ拡充を計画している。